

笑顔のために



私は、ベトナム中部の中央直轄都市、ダナン市で障害児・者支援隊員としてボランティア活動をしています。配属先は、グエンディンチエウ養護学校で、4～22歳の視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由の児童、生徒約200名が在籍しているほか、視覚障害児者や通学困難な身辺自立をしている約40名の児童、生徒が本校の寮に入所しています。クラス数は、幼児教育程度が5、小学校教育程度10、中学校教育程度5の計20クラスあり、総職員は約50名です。

私は主に、音楽、美術、体育の授業内容の改善、向上に取り組んでいます。赴任して感じた事は、日本でやってきたことはほとんど通用しないな、ということでした。まず、教室環境、教材、生徒の規模に対応する教員数が全く違いました。このような条件下で、どんな授業ができるのか初めは戸惑いましたが、2週間程見学をした中でたくさんのヒントが見えてきました。

体育館がないため、体育をするのは、ほこほこの舗装されていない空間。雨が降ったら、滑る床の集会所。美術は、主に廃材を使った授業か、売り物になる作品作り。音楽は歌ったり、ダンスをしていました。この環境の中で続けてきた同僚教員の授業のやり方にはたくさんの驚きや学ぶことがありました。日本から、物を持ってくるのは簡単なことかもしれませんが、物は壊れます。壊れたら、授業で取り組むことができません。日本と同じ内容の授業をすることは難しいと考え、学校にあるもの、ダナンで手に入るもので、尚かつ同僚が取り組んでいない授業内容を工夫し、行おうと考



えました。

そこで、まず、授業に取り入れたのがパラバルーンでした。パラバルーンは、カラフルな円形の布で、その端を子供たちが持ち、音楽に合わせて上下に振ったり動いたりする運動です。日本では、幼稚園や小学校の運動会、特別支援学校の音楽、体育の授業に取り入れられているものです。少ない教員で把握でき子供たちも楽しめる活動として、授業に取り入れやすく、同僚の興味も引き付けることができました。嬉しいことに、私の授業を見ていた同僚の一人が、突然パラバルーンを作ってきてくれ授業にも取り入れてくれました。

また、音楽の授業では、発語がない子ども歌の授業に参加できるよう、*リトミックを取り入れてみました。初めは少ない教員で子供たちを動かすのはとても大変でどうなるかと不安でしたが、何回か続けていくうちに子供たちが動きを覚え、音楽がかかると、すぐに動いてくれるようになりました。これも、音源が欲しいと言ってくれ、同僚が授業に取り入れてくれたので、今後も継続してくれることを期待しています。また、教室の中でしか体育ができないクラスに的あてを作って実施したり、ベトナム

ではあまり行われていない絵具を使って手で絵を自由に書いたり、と手に入るもので工夫して授業を行っています。

良い事ばかり書いてきましたが、これまで活動してきた中でたくさんの小さな壁にぶつかってきました。

授業を複数の教員で行う感覚がないため、私が授業に行くと完全にマンツーマンになってしまい、手伝って欲しいのに自分の仕事をしたり、どこかへ行ってしまったり…。どうしてー!!と初めは思っていました。魅力的な授業だと一緒にやってくれるので、子供たちはもちろん、同僚教員も楽しめる内容を考えるべきだと気づきました。

日本では経験できない異文化を経験し、刺激的な毎日を送っています。活動でうまくいかないことがあっても、子供たちの笑顔に救われながらこの子供たちのためにも思い頑張ることが出来ます。異国の地ですが、子供たちの笑顔から感じるものは日本もベトナムも同じです。この子供たちの笑顔をたくさん見ることができるよう、あと残り半年、精一杯活動していきたいと思っています。

*「リトミック」: 音楽を使って身体的・感覚的・知的に優れた子どもたちの育成を図るもの。

●プロフィール

成田 結希 (なりた ゆき)

茨城県出身。大学では、健康スポーツ学専攻。卒業後、茨城県の特別支援学校に4年勤務する。4年間の間に特別支援学校の教員免許取得。その後、青年海外協力隊、障害児・者支援隊員としてベトナム、ダナン市のグエンディンチエウ養護学校に赴任。

